

輝け！シン尾花沢中

第78号

令和8年

7月22日

ゆくてののぞみ 語りつつ 自律をめざす わが学園

地域の伝統文化を未来へつなぐ～花笠踊り交流学習～

本校では、目指す生徒像「活力」の一環として「ふるさとを大切に」「地域貢献の推進」を掲げています。

15日（水）、家庭科の授業「かかわり合う地域と家庭」で、山形大学花笠サークル四面楚歌の4名にいらしていただき「花笠踊り交流学習」が行われました。



四面楚歌の皆さん

- ねらい
- ・花笠踊りを通して地域の伝統文化への理解を深める。
 - ・大学生のサークル活動に触れることで、文化継承の意義や地域の人々とのつながりの大切さを知り、地域社会に積極的に参画できるようにする。また、中学生として、どんな地域貢献ができるのかを考えることができるようにする。
 - ・大学生との交流を通して、進路や将来について考える機会の一つとする。

当日は、花笠踊りの歴史について視聴し、サークルの活動内容と尾花沢中の取組を紹介し合った後に、花笠踊りをお互いに披露しました。また、「サークル活動に対する思い」「地域文化継承」「地域とのつながり」「大学生活」についてインタビューするとともに「中学生へのアドバイス」もいただいたところです。

学生の一人、佐藤さんは次のように語ってくれました。

■花笠を通して伝えたいこと

花笠踊りは、踊りや音楽だけを受け継ぐものではなく、人と人とのつながりや山形の誇りを次の世代へつないでいく文化だと考えています。私自身も花笠を通して多くの人と出会い、支え合う大切さを学びました。その魅力を多くの人に伝え、「また見たい」踊ってみたいと思ってもらえるような活動を続け、伝統文化を未来へつないでいきたいです。

■尾中生へのメッセージ

小さいころから毎年踊っていると「また花笠か」と思うこともあるかと思いますが、大人になって県外に出た人が「実は花笠ってすごい文化だったんだ」と気づくことは少なくありません。今は当たり前でも、その当たり前は尾花沢にしかない宝物です。自分の出身に誇りをもち、自分のやりたいことも貫いて堂々と花笠を踊ってほしいと思います。

今年も「おばなざわ祭り」が近づいてきました。例年よりも思いを込めて、花笠を踊ったりみたりすることができるのではないのでしょうか。

四面楚歌の皆さん、ありがとうございました。

【文責：校長 工藤雅史】



四面楚歌の花笠披露



尾中生の花笠披露



尾中生からの質問に答える佐藤さん